

完了後の評価個表

整理番号	5-1
------	-----

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	鹿児島県
ふりがな 地域(地区)名	うけんそん 宇検村	事業実施主体	鹿児島県、宇検村、 あまみ大島森林組合等
関係市町村	宇検村	管理主体	宇検村、あまみ大島森林組合等
事業実施期間	H15～H18(4年間)	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	① 位置等 宇検村は、奄美大島本島の西端に位置し、南西部は大島本島最高峰の湯湾岳をはじめとする山地に囲まれており、南は瀬戸内町、東は奄美市住用町、北は大和村に接した鹿児島県有数の林業地帯である。 ② 森林の状況 当村の森林面積9,379ha(森林率90.7%)のうち、民有林面積は8,506haで森林の91%を占めており、内訳は公有林が1,782ha(21%)、私有林が6,725ha(79%)となっている。民有林の人工林面積は1,565ha(人工林率18%)、天然林面積は6,887ha(81%)となっており、年齢構成では3年齢(15年生)から12年齢(60年生)の森林が5,539haで65%を占めている。 また、水源涵養保安林として1,761haが指定されているなど、森林の有する公益的機能の高度発揮が期待されている。 ③ 当地区を整備する目的・意義 当地区はイタジイ等を主体とする天然広葉樹林で占められており、豊富な広葉樹資源を背景にチップ材の生産が盛んに行われてきたが、外材の輸入増の影響もあり、チップ材の生産が減少しつつあった。このため、家具材や内装材等の付加価値の高い利用を図る観点からの森林整備が求められていたが、森林所有者の施業意欲が減退しており、森林の有する多面的機能の高度発揮が懸念される状況にあった。 また、森林経営の基盤となる林道等の路網が不十分であったことから、適切な森林施業の実施や効率的な木材生産に支障を来していた。 このため、計画的に除・間伐等の森林施業を推進するとともに、路網が必要な森林において林道を開設することにより、森林の有する多面的機能の維持・増進を図り、もって森林環境の保全に資することを目的として事業を導入した。 (事業概要) 森林整備 植栽 1ha 下刈 6ha 育成複層林改良 448ha 除・間伐 10ha 森林管理道整備 あむろ ① 阿室線 車道幅員 3.0m 開設延長 609m 利用区域面積 59ha たけんふくもと ② 田検福元線 車道幅員 3.0m 開設延長 733m 利用区域面積 400ha へた ③ 平田線 車道幅員 4.0m 開設延長 2,350m 利用区域面積 253ha しんこがち ④ 新小勝線 車道幅員 3.0m 開設延長 1,374m 利用区域面積 293ha 総事業費 1,674,943千円 (当初総事業費 1,299,642千円)
----------	---

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	平成24年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 なお、事業計画の変更等により総事業費が増加したほか、森林整備区域面積の増及び長伐期施業への見直し等を踏まえて分析した結果、事業採択時に比べて総便益、総費用とも増加となった。 総便益(B) 7,859,484千円 (事業採択時 3,307,324千円) 総費用(C) 2,352,401千円 (事業採択時 1,825,304千円) 分析結果(B/C) 3.34 (事業採択時 1.81)
② 事業効果の発現状況	本事業で植栽されたイジュの成長は良好で、育成複層林改良を行った箇所とともに多様な環境を持つ健全な広葉樹林として育成されており、森林資源として充実してきている。 また、危険木や不用木等の伐倒・除去により、多くの人々が親しみやすい広葉樹林となり、特に赤土山周辺の広葉樹林には、散策や山菜取り、レクリエーション活動を行う人々が訪れている。 林道が整備された区域においては、森林施業の効率化、木材生産の低コスト化が図られるとともに平成23年、24年の豪雨災害発生時には県道の通行止に際して迂回路として機能した。

整理番号	5 - 2
------	-------

③ 事業により整備された施設の管理状況	森林については、森林所有者自ら、又は、森林所有者から経営受託した森林組合が管理しており、施業界の刈り払いを年数回実施するなど整備後の林況や施設の維持管理は良好である。 開設した林道4路線については、宇検村が管理者となって、村が定めた林道維持管理規程に基づき適正に管理しているとともに、地元住民による草刈や側溝掃除等が定期的に行われており、維持管理状況は良好である。
④ 事業実施による環境の変化	複層林改良が実施された森林は、不用木の除去や不良木の淘汰等が適切に行われ、明るく健全な林分に改善された。 林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。
⑤ 社会経済情勢の変化	林道整備により、作業現場へのアクセスの改善、素材生産の低コスト化が図られたほか、生活道路としても利用されており、森林整備に対する理解も深まっており、森林施業の意欲も除々に増進されてきている。
⑥ 今後の課題等	利用期を迎えつつある森林資源を活用し、持続的な森林経営を実現していく必要があるが、木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分とは言えない状況であることから、森林施業の集約化や路網整備を通じて低コスト化を図り、計画的な森林整備を一層推進する必要がある。 (地元の意見) ・ 森林整備事業実施による土砂流出の防止、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与している。(鹿児島県) ・ 林道の開設後は、沿線の小溪流等への散策へ訪れる者が増加してきているとともに、森林災害等の早期発見に寄与している。(宇検村)
評価結果	・ 必要性： 森林の有する多面的機能の維持・増進を図るための森林整備が計画的に実施されていること、造林、保育、素材生産等の施業を効率的に行うためのネットワークであり、林業の最も重要な生産基盤である路網が整備されたこと等から事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 森林整備については、改良が必要な森林を優先的に実施していること、林道整備については、現地に応じた最も効果的かつ効率的な線形の設定に努め工種・工法の選定に当たってもコスト縮減に努めていること等から事業の効率性が認められる。 ・ 有効性： 適切な森林施業の実施により森林の有する多面的機能の維持・増進に寄与していること、整備した林道が災害時の迂回路として機能していること等から事業の有効性が認められる。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

都道府県名: 鹿児島県

地域(地区)名: 宇検村^{うけんそん}

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	592,296	
	流域貯水便益	226,458	
	水質浄化便益	479,375	
山地保全便益	土砂流出防止便益	518,255	
	土砂崩壊防止便益	557	
環境保全便益	炭素固定便益	298,619	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	11,041	
	木材利用増進便益	3,618	
	木材生産確保・増進便益	107,201	
森林整備経費縮減便益	造林作業経費縮減便益	64,553	
	森林管理等経費縮減便益	5,569	
	森林整備促進便益	4,952,939	
一般交通便益	走行時間短縮便益	891	
	走行経費減少便益	324	
災害等軽減便益	災害復旧経費縮減便益	593,582	
維持管理費縮減便益		4,206	
総 便 益 (B)		7,859,484	
総 費 用 (C)		2,352,401	
費用便益比	$B \div C = \frac{7,859,484}{2,352,401} = 3.34$		